

令和5年度自然科学研究科博士後期課程社会人学生アンケート

I アンケートの概要

1 調査目的

社会人学生の実態やマインドを調査し、今後の教育環境の充実や社会人を含めた博士課程入学者を増やすための施策を考えることを目的として実施

2 実施期間

2023年8月25日(金)～2022年9月8日(金)

3 実施方法

【調査対象】 令和4年10月並びに令和5年4月に入学した自然科学研究科博士後期(博士)課程の社会人学生

【調査方法】 Teamsのアンケートフォーム

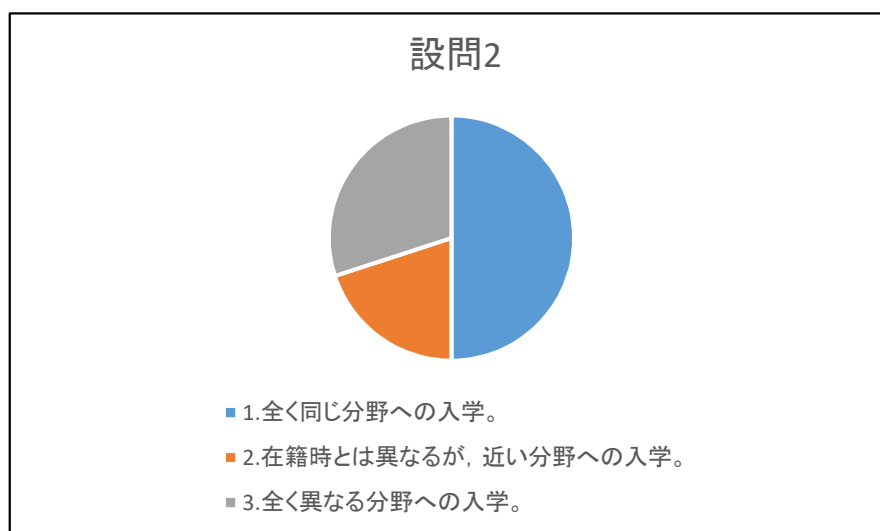
4 回答状況

学生数:17人 回答数:10人 回答率:58.8%

II アンケートの集計結果

設問2 博士前期(修士)課程(又は学部)在籍時と同じ分野への入学ですか？

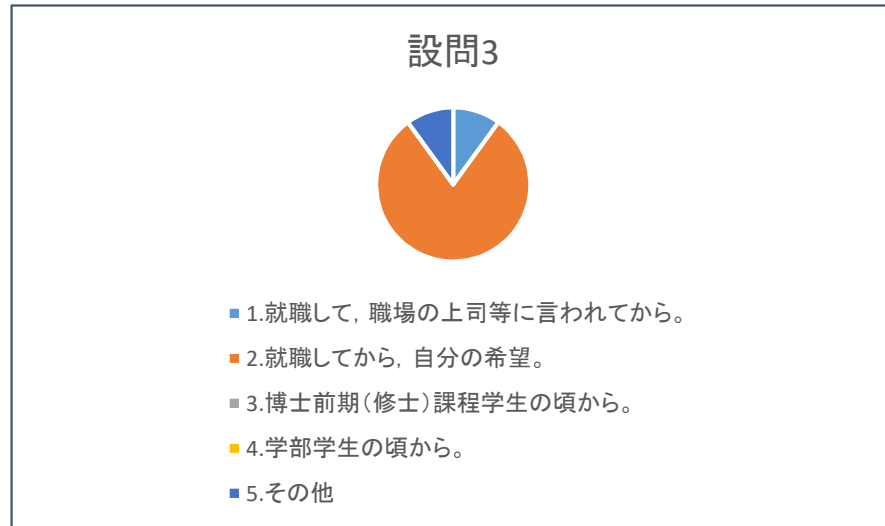
- | | |
|-----------------------|---|
| 1.全く同じ分野への入学。 | 5 |
| 2.在籍時とは異なるが、近い分野への入学。 | 2 |
| 3.全く異なる分野への入学。 | 3 |



・一度社会に出て様々な経験を積んだにもかかわらず、学生時代の専攻分野を極めたいという意思の表れか、70%の学生が前期課程または学部時代の専攻分野に近い分野を選択している。なお、前年度は全く異なる分野への入学はゼロであった。

設問3 博士後期(博士)課程への入学を考えたのはいつ頃からですか？

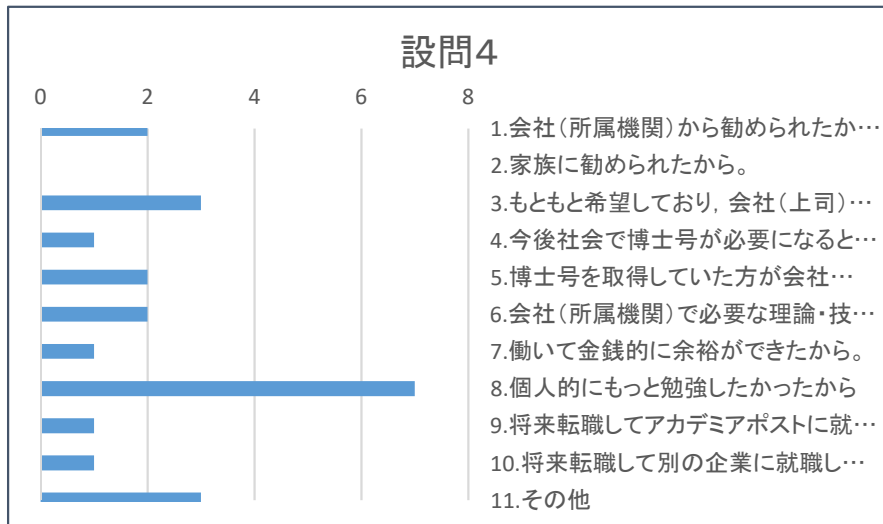
- | | |
|------------------------|---|
| 1.就職して, 職場の上司等に言われてから。 | 1 |
| 2.就職してから, 自分の希望。 | 8 |
| 3.博士前期(修士)課程学生の頃から。 | 0 |
| 4.学部学生の頃から。 | 0 |
| 5.その他 | 1 |



・就職後自らの意思で入学を決めたという回答が80%あり、社会に出てから学びの必要性を感じたのではないと思われる。前年度も自分の希望が最多。

設問4 博士後期(博士)課程への入学動機を教えてください。(複数回答可)

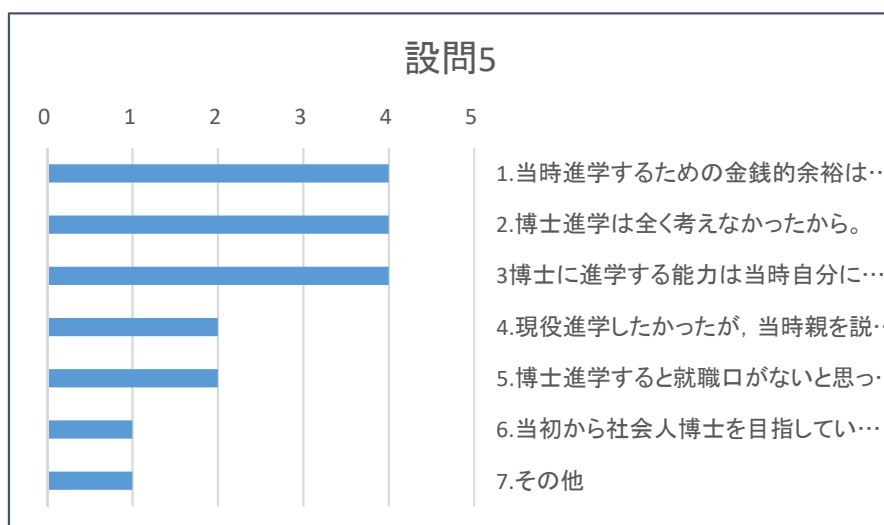
- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1.会社(所属機関)から勧められたから。 | 2 |
| 2.家族に勧められたから。 | 0 |
| 3.もともと希望しており, 会社(上司)を説得できたから。 | 3 |
| 4.今後社会で博士号が必要になると思うから。 | 1 |
| 5.博士号を取得していた方が会社(所属機関)で重要なポストに就けるから。 | 2 |
| 6.会社(所属機関)で必要な理論・技術等を博士課程で取得できるから。 | 2 |
| 7.働いて金銭的に余裕ができたから。 | 1 |
| 8.個人的にもっと勉強したかったから | 7 |
| 9.将来転職してアカデミアポストに就きたいから。 | 1 |
| 10.将来転職して別の企業に就職したいから。 | 1 |
| 11.その他 | 3 |



・博士号取得後のステップアップなどの実利的な理由もあるが、圧倒的に多いのは、もっと勉強したいという意欲が入学動機となっている。昨年度も個人的にもっと勉強したかったからがトップ。

設問5 現役進学(進学者選考)で、博士課程に進学しなかった理由は何ですか？(複数回答可)

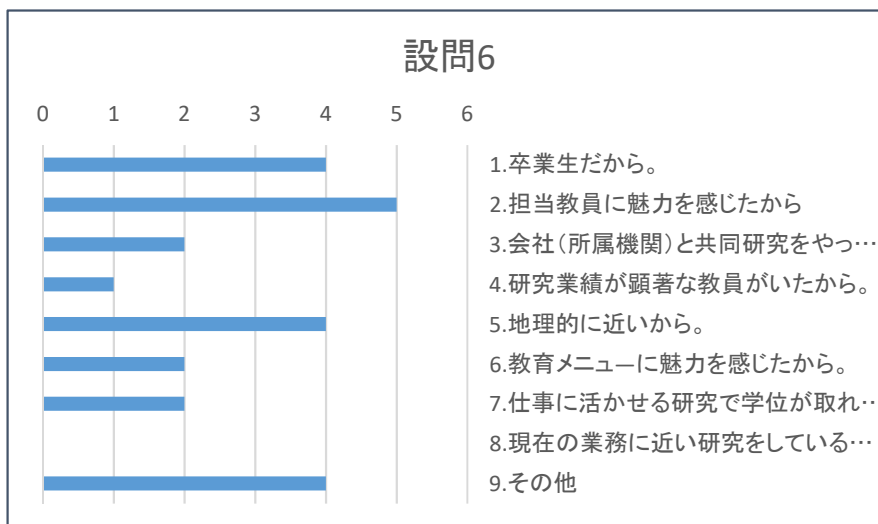
1.当時進学するための金銭的余裕はなかったから。	4
2.博士進学は全く考えなかったから。	4
3.博士に進学する能力は当時自分にはないと思っていたから。	4
4.現役進学したかったが、当時親を説得できなかったから。	2
5.博士進学すると就職口がないと思っていたから。	2
6.当初から社会人博士を目指していたから。	1
7.その他	1



・初めから社会人博士を目指すという人生設計を持っていたというような回答もあるが、学費の問題と自身の能力に懐疑的だったという回答が多い。社会に出てから得られた金銭的な余裕と自分の能力に対する自信の獲得が背中を押したと考えられる。前年度も近い傾向であった。

設問6 入学先に新潟大学を選んだ理由は何ですか？(複数回答可)

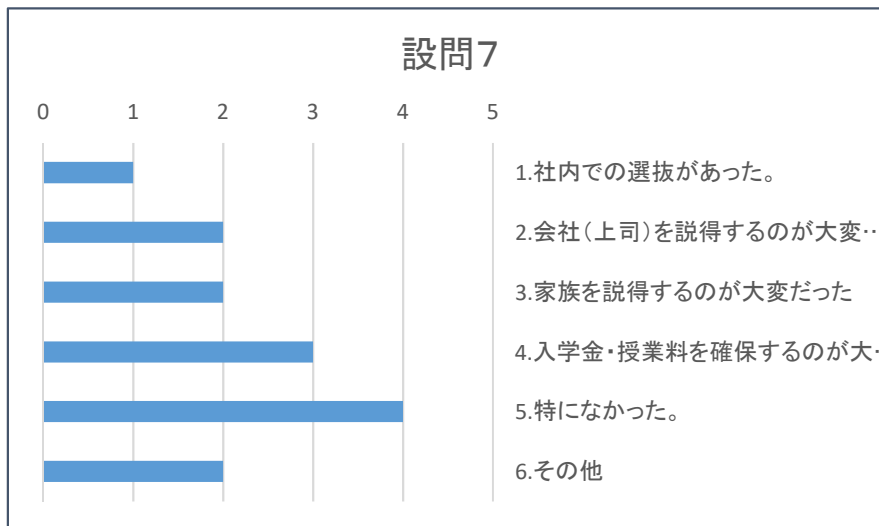
1.卒業生だから。	4
2.担当教員に魅力を感じたから	5
3.会社(所属機関)と共同研究をやっていたから。あるいはやっているから。	2
4.研究業績が顕著な教員がいたから。	1
5.地理的に近いから。	4
6.教育メニューに魅力を感じたから。	2
7.仕事に活かせる研究で学位が取れそうだから。	2
8.現在の業務に近い研究をしている教員がいたから。	0
9.その他	4



・卒業生だから、地理的に近い、担当教員に魅力を感じたからという回答は、設問2の在籍時と同じ分野を選択したという回答に通じるものと思われる。現在の業務に近い研究をしている教員がいたから、という回答がないのはもしかしたら大学のPR不足かもしれない。共同研究理由は前年度より減っている。

設問7 入学を決めるまでに苦労した点があれば教えてください。(複数回答可)

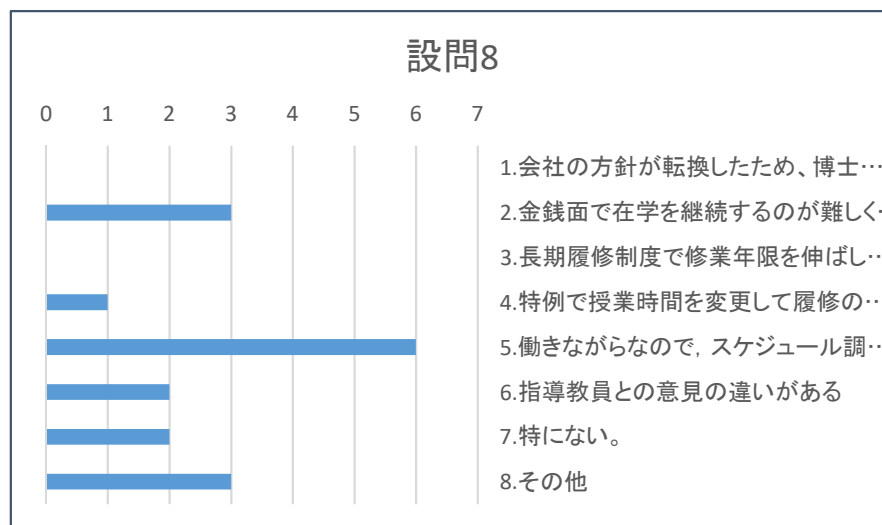
1.社内での選抜があった。	1
2.会社(上司)を説得するのが大変だった。	2
3.家族を説得するのが大変だった	2
4.入学金・授業料を確保するのが大変だった。	3
5.特になかった。	4
6.その他	2



・特に問題がなかった、という回答が多かったが、金銭的な面と周囲のコンセンサスを得なければならぬという社会人学生特有の課題が示された。前年度とほぼ同様な傾向。

設問8 入学後に苦労している点があれば教えてください。(複数回答可)

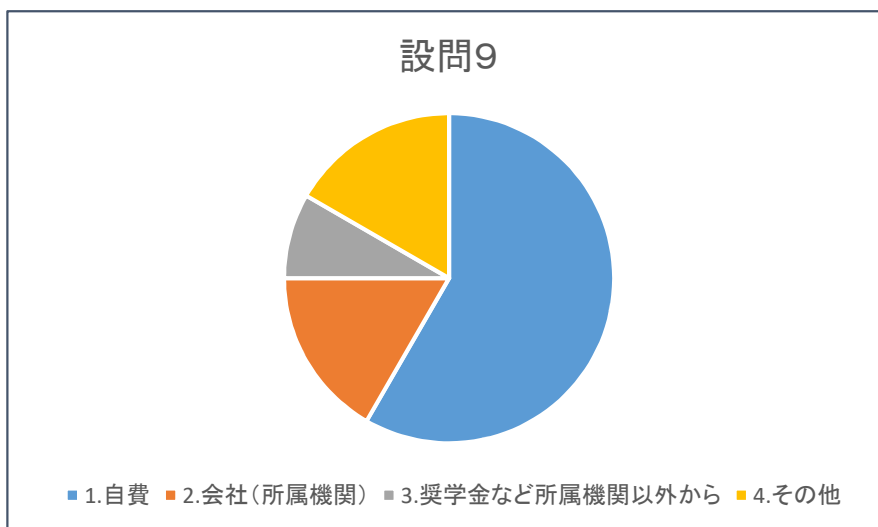
- | | |
|---|---|
| 1.会社の方針が転換したため、博士課程在学を継続するのが難しくなっている。 | 0 |
| 2.金銭面で在学を継続するのが難しくなってきた。 | 3 |
| 3.長期履修制度で修業年限を伸ばしているが、それでも学位取得が難しくなりそう。 | 0 |
| 4.特例で授業時間を変更して履修の便を図ってもらっているが、それでも聴講したい授業が取れていない。 | 1 |
| 5.働きながらなので、スケジュール調整が難しく研究が進んでいない。 | 6 |
| 6.指導教員との意見の違いがある | 2 |
| 7.特にない。 | 2 |
| 8.その他 | 3 |



・働きながらの大学院での研究に対しては、研究時間確保のためのスケジュール調整に苦
 労しているという回答が多い。また金銭面での苦労もあげられている。調査対象がD1のため
 修業年限の延長という問題はまだ出ていない。昨年度はすべての学年対象だったためか、
 延長問題では一定数の回答があった。

設問9 入学金・授業料の出所はどこですか？(複数回答可)

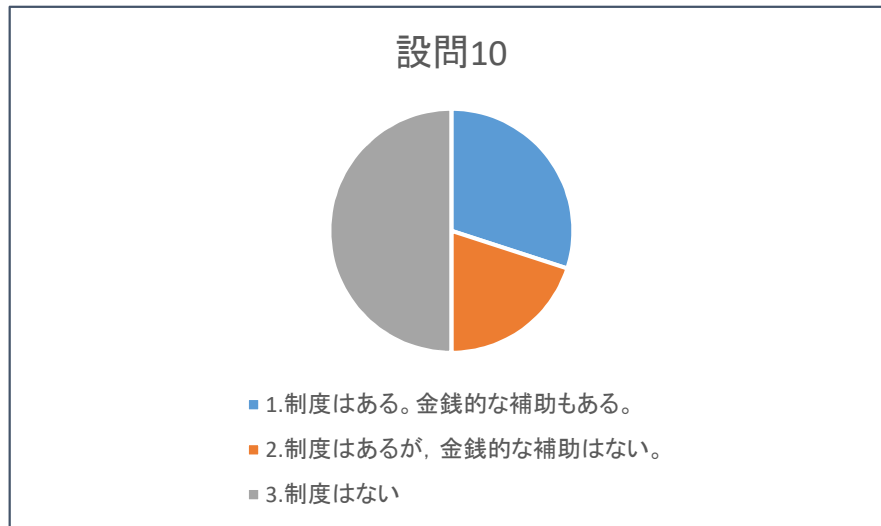
- | | |
|-----------------|---|
| 1.自費 | 7 |
| 2.会社(所属機関) | 2 |
| 3.奨学金など所属機関以外から | 1 |
| 4.その他 | 2 |



・社会人なので学費は自費という回答が70%だが、会社からという回答もあった。昨年度は
 80%が自費であった。

設問10 会社(所属機関)に大学院入学を認める制度がありますか？ある場合には、会社から金銭面
 での補助はありますか？

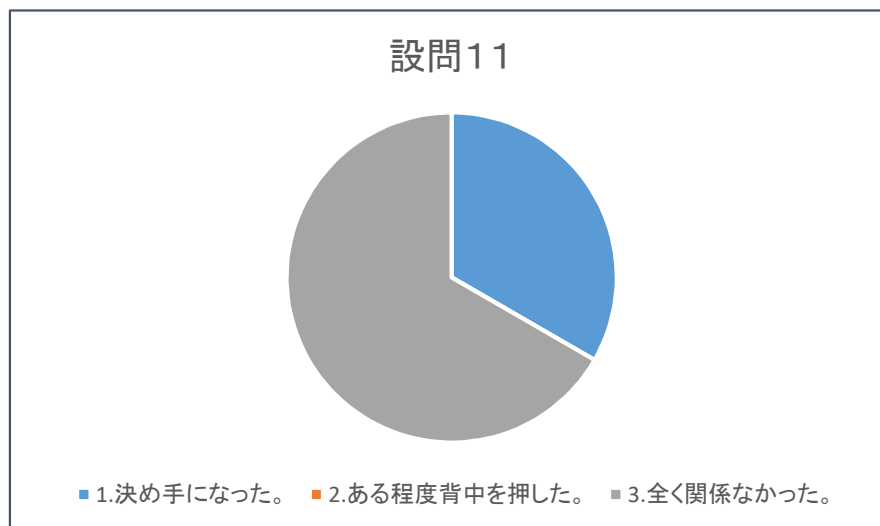
- | | |
|---------------------|---|
| 1.制度はある。金銭的な補助もある。 | 3 |
| 2.制度はあるが、金銭的な補助はない。 | 2 |
| 3.制度はない | 5 |



・回答者の半数の所属機関では大学院入学に対して金銭的な援助も含めて何らかのプロモーション制度を用意して便宜を図っている。企業で職員の意欲的な学びに対する理解が深まりつつあることを示しているといえるのではないかと思われる。制度ありなしの比率は昨年度同様半々。

設問11 10の質問で「制度はある。金銭的な補助もある。」を選択した方にお伺いします。会社からの金銭面での補助が入学の決め手になりましたか？

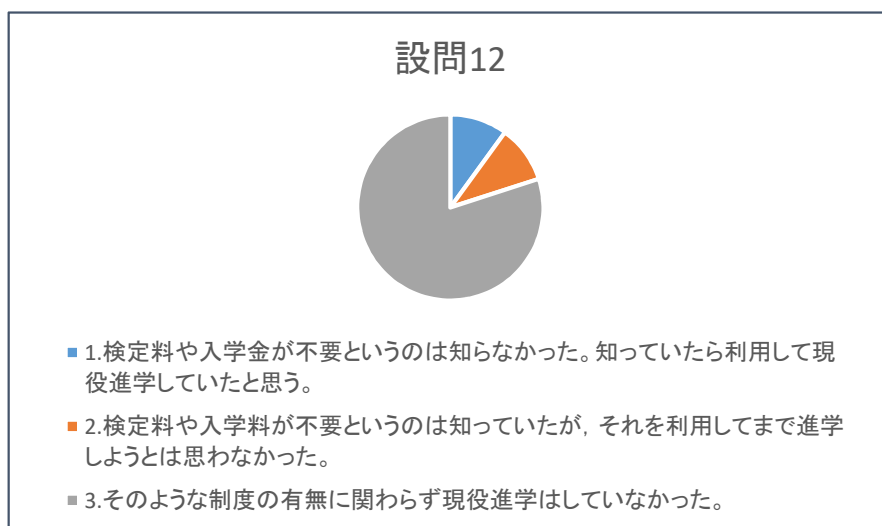
- | | |
|---------------|---|
| 1.決め手になった。 | 1 |
| 2.ある程度背中を押した。 | 0 |
| 3.全く関係なかった。 | 2 |



・他の設問で金銭的なことを問題視する回答も見られたが、この設問の対象者群では、金銭的な補助は大学院進学に対しては決定的な要因ではなかったようである。

設問12 現役進学(進学者選抜)では入学検定料や入学金が不要です。当時皆さんが進学するときにそのような制度の存在を知っていたら現役進学していましたか？

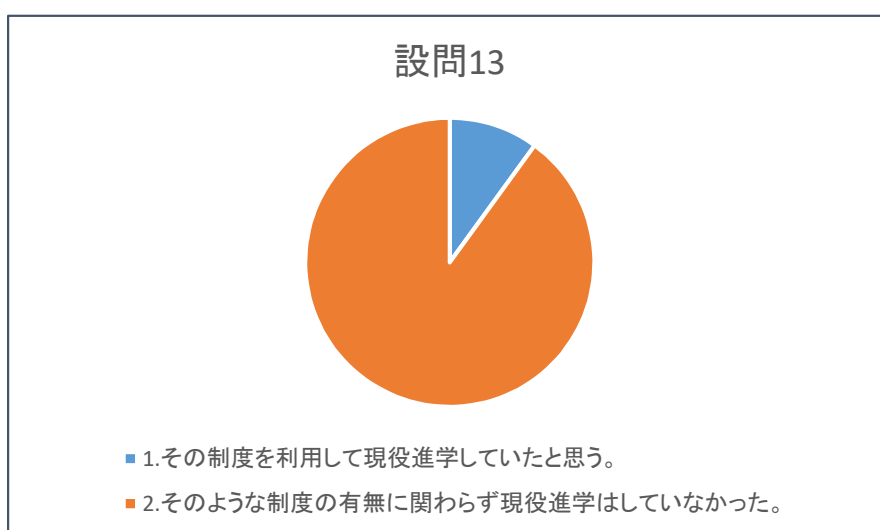
- | | |
|---|---|
| 1.検定料や入学金が不要というのは知らなかった。知っていたら利用して現役進学していたと思う。 | 1 |
| 2.検定料や入学料が不要というのは知っていたが、それを利用してまで進学しようとは思わなかった。 | 1 |
| 3.そのような制度の有無に関わらず現役進学はしていなかった。 | 8 |



・設問3, 4, 5では現役では博士後期課程への進学は金銭的な理由で断念したという回答も一定数あったが、それ以外の理由で進学を考慮しなかったという回答がほとんどを占めているので、検定料や入学金の免除措置はあまりインセンティブを与えていなかったと思われる。これは昨年度と同じ傾向。

設問13 最近学振DC、フェローシップなど博士課程の学生を対象とする返還不要の奨学金制度が充実してきています。当時皆さんが進学するときにそのような制度があったら、あるいは知っていたら利用して現役進学していましたか？

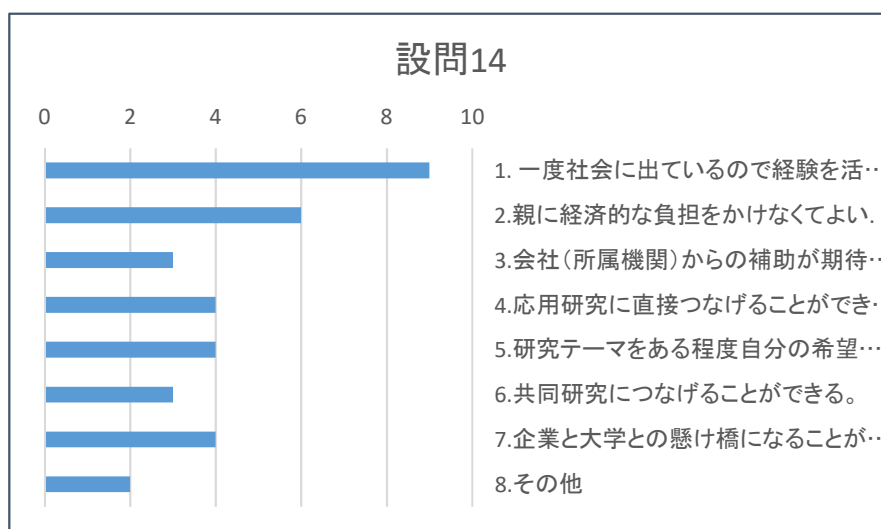
- | | |
|--------------------------------|---|
| 1.その制度を利用して現役進学していたと思う。 | 1 |
| 2.そのような制度の有無に関わらず現役進学はしていなかった。 | 9 |



・設問13と同様に進学を考慮する時点で金銭的なことは第一義的な問題ではなかったものと思われる。これもほぼ昨年度と同じ傾向。

設問14 現役進学と比べて、社会人学生のメリットはどこにあると感じますか？(複数回答可)

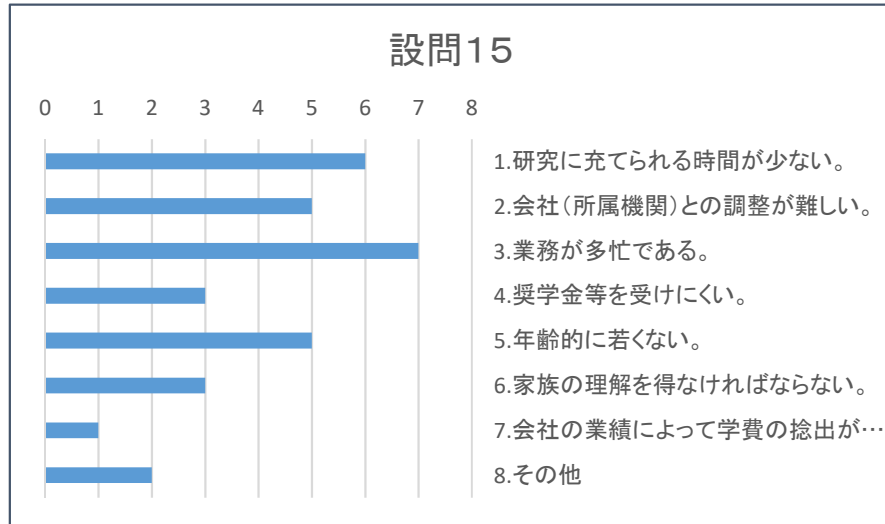
- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 一度社会に出ているので経験を活かせる。 | 9 |
| 2. 親に経済的な負担をかけなくてよい。 | 6 |
| 3. 会社(所属機関)からの補助が期待できる。 | 3 |
| 4. 応用研究に直接つなげることができる。 | 4 |
| 5. 研究テーマをある程度自分の希望に沿ったものに自由に選べる。 | 4 |
| 6. 共同研究につなげることができる。 | 3 |
| 7. 企業と大学との懸け橋になることができる。 | 4 |
| 8. その他 | 2 |



・学生時代ではよく見えていなかった実社会で必要とされる学問的なニーズや素養を学びなおすということに対して、意義と重要性を感じていると思われる。順位の傾向も昨年度と同様。

設問15 現役進学と比べて、社会人学生のデメリットはどこにあると感じますか？(複数回答可)

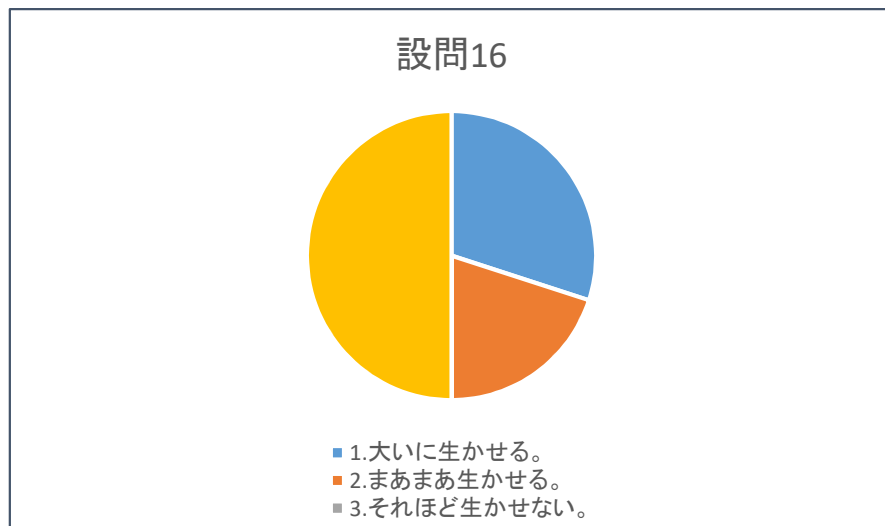
- | | |
|-------------------------------|---|
| 1. 研究に充てられる時間が少ない。 | 6 |
| 2. 会社(所属機関)との調整が難しい。 | 5 |
| 3. 業務が多忙である。 | 7 |
| 4. 奨学金等を受けにくい。 | 3 |
| 5. 年齢的に若くない。 | 5 |
| 6. 家族の理解を得なければならない。 | 3 |
| 7. 会社の業績によって学費の捻出が難しくなる懸念がある。 | 1 |
| 8. その他 | 2 |



・設問8とも関連するが、やはり本来業務との兼ね合いで時間調整やスケジュール調整がむずかしくなるといふ面は避けられない。また社会で経験年数を積んだ分だけ年齢を重ねているということもある。順位の傾向は昨年度とほぼ同じ。

設問16 修了後に会社(所属機関)に戻った時に、学んだことは職場で生かせそうですか？

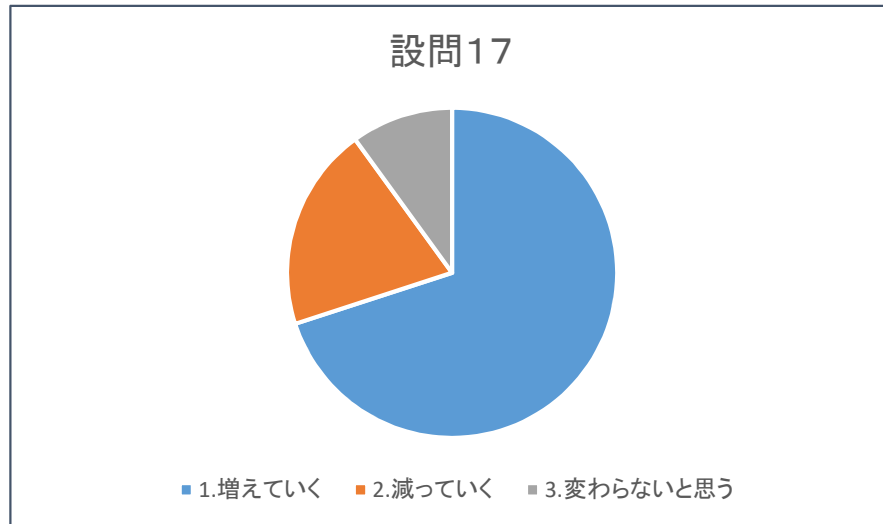
- | | |
|----------------|---|
| 1. 大いに生かせる。 | 3 |
| 2. まあまあ生かせる。 | 2 |
| 3. それほど生かせない。 | 0 |
| 4. そういう目的ではない。 | 5 |



・半数は職場で成果を活かせると考えているが、半数はそういう目的ではないと回答している。一定数が会社等に在籍中の学生ではない可能性もあるが、自己研鑽を目的としているとも考えられる。昨年度に比べてそういう目的ではないとの回答が多くなっている。

設問17 今後社会全般で、社会人学生は増えていくと思いますか？理由も教えてください。

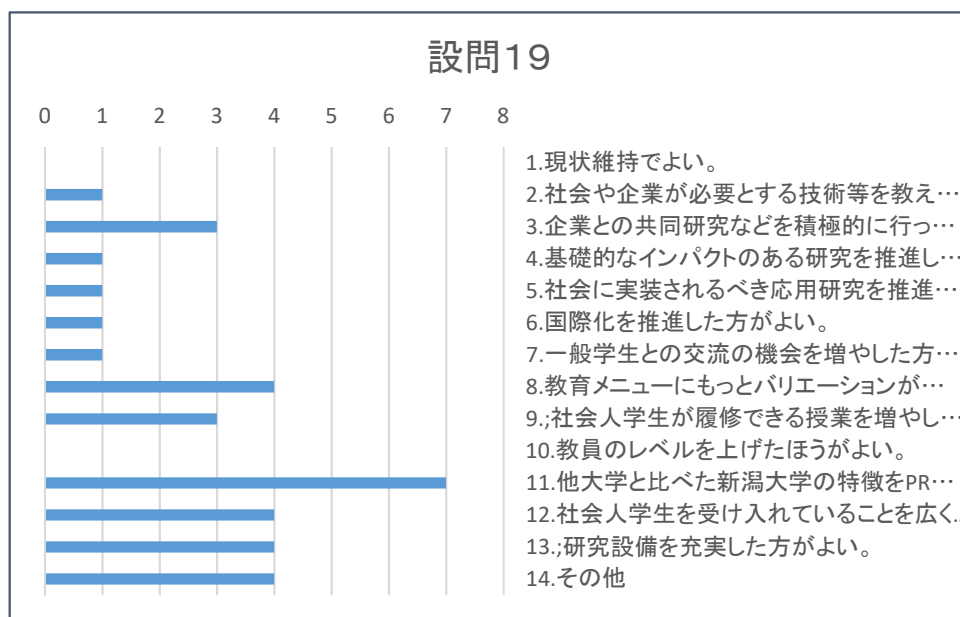
- | | |
|------------|---|
| 1.増えていく | 7 |
| 2.減っていく | 2 |
| 3.変わらないと思う | 1 |



・今後増えていくという回答が70%を占めているが、否定的な意見では企業にとってあまりメリットがないというのが多い。増えていくとの回答は昨年度は55%であった。

設問19 今後新潟大学大学院での社会人学生を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか？(複数回答可)

- | | |
|--------------------------------|---|
| 1.現状維持でよい。 | 0 |
| 2.社会や企業が必要とする技術等を教えた方がよい。 | 1 |
| 3.企業との共同研究などを積極的に行った方がよい。 | 3 |
| 4.基礎的なインパクトのある研究を推進した方がよい。 | 1 |
| 5.社会に実装されるべき応用研究を推進した方がよい。 | 1 |
| 6.国際化を推進した方がよい。 | 1 |
| 7.一般学生との交流の機会を増やした方がよい。 | 1 |
| 8.教育メニューにもっとバリエーションがあった方がよい。 | 4 |
| 9.社会人学生が履修できる授業を増やした方がよい。 | 3 |
| 10.教員のレベルを上げたほうがよい。 | 0 |
| 11.他大学と比べた新潟大学の特徴をPRした方がよい。 | 7 |
| 12.社会人学生を受け入れていることを広くPRした方がよい。 | 4 |
| 13.研究設備を充実した方がよい。 | 4 |
| 14.その他 | 4 |



・新潟大学の特徴を広くPRしたほうが良いという意見が多い。また企業との共同研究を拡充すべきという意見がある反面大学院は社会のニーズとは切り離すべきという意見もある。金銭的な支援の必要性も一定数あると思われる。昨年度は大学の特徴のPRを指摘しているものが最も多かったが、社会人学生が履修できる授業増や共同研究を挙げている学生も多かった。